SONY

4-181-486-**04**(1)

ホームシアターシステム

取扱説明書

HT-CT350

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

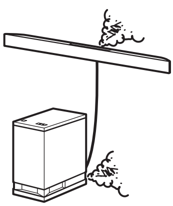
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



→

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止
接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

⚠ 警告

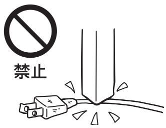


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。
本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

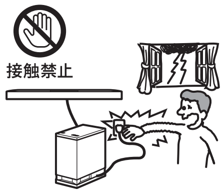
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



大音量で長時間つづけて聞かない

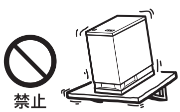
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



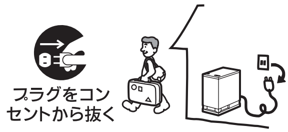
コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



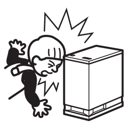
お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



設置上のご注意

本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。



電池についての安全上のご注意

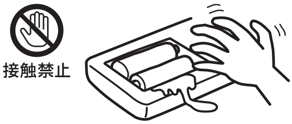
液漏れ・破裂・発熱による**大けがや失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。



液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

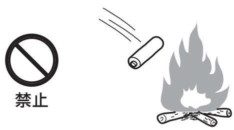
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



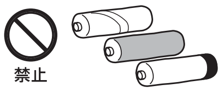
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



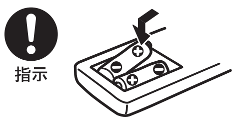
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

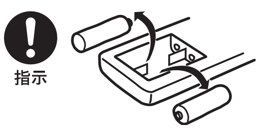
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

商標について

本機はドルビー*1デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*2デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
*2 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよび記号はDTS, Incの登録商標です。DTS Digital SurroundおよびDTSロゴはDTS, Incの商標です。製品はソフトウェアを含みます。© DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。
HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の米国およびその他の国における登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

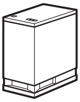
“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

目次

同梱品を確かめる

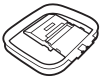
- サブウーファー（1）



- スピーカー（1）



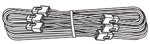
- AMループアンテナ（1）



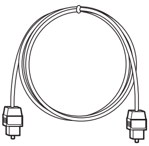
- FMワイヤーアンテナ（1）



- スピーカーコード（1）



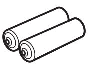
- 光デジタル音声コード（2.5 m）（テレビ接続用）（1）



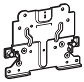
- リモコン（RM-AAU077）（1）



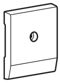
- 単3乾電池（2）



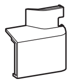
- WS-CT350EB
  - 取り付け金具（1）



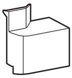
  - リアカバー A（1）



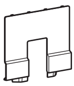
  - リアカバー B（1）



  - リアカバー C（1）



  - テレビカバー（1）



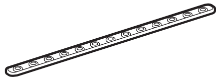
- ネジ（大：+PSW5 × 16 mm）（6）



- ネジ（小：M3 × 8 mm）（1）



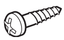
- 転倒防止用ベルト



- 転倒防止用ベルトのネジ（+PSW4 × 20 mm）（1）



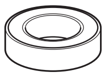
- 転倒防止用ベルトの木ネジ（M3.8 × 20 mm）（1）



- 転倒防止部品（2）



- スペーサー（4）



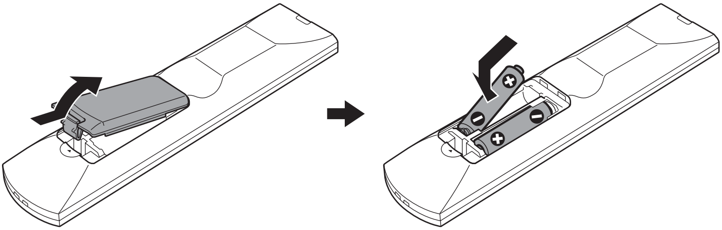
- 壁掛けユニット用ネジ（+PSW6 × 22 mm）（4）



- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- カスタマー登録 （1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。リモコンは本機のリモコン受光部（R）に向けて操作してください。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

本機を設置する

下図は本機とスピーカーの設置のしかたの例です。

ご注意

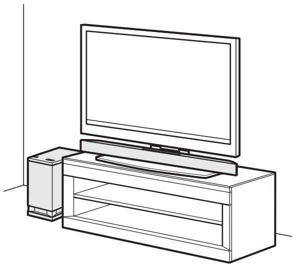
- サブウーファーの背面にものを置いて、通風孔をふさがないでください。

一体設置が可能なテレビの場合

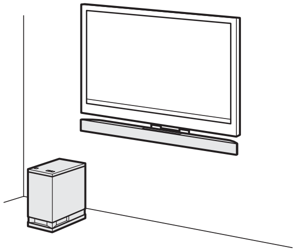
次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

KDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800、 KDL-40/46HX800、KDL-40/46EX700

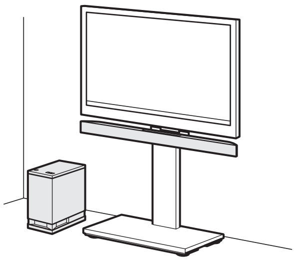
- スピーカーをテレビスタンドに取り付ける（16ページ）



- スピーカーとテレビを壁にかける（19ページ）



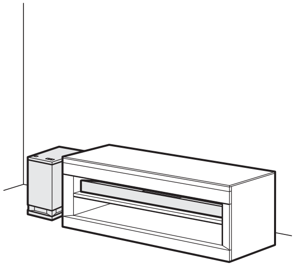
- スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける（19ページ）



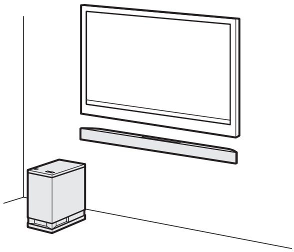
一般的なテレビの場合

お持ちのテレビが一体設置に対応していない場合は、本機を以下のように設置してお使いいただけます。

- スピーカーをラックなどの中に設置する



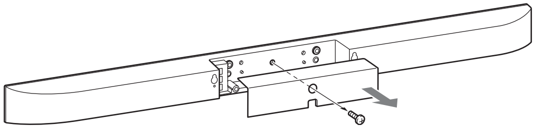
- スピーカーを壁に取り付ける（25ページ）



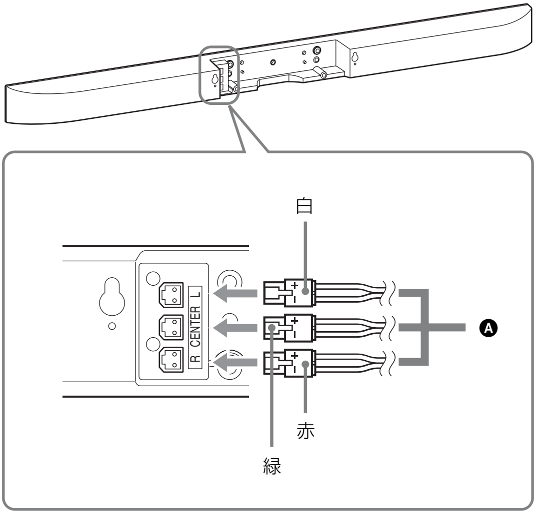
スピーカーコードをスピーカーにつなぐ

スピーカーコードのコネクターはスピーカーの種類に合せて色分けされています。スピーカーコードは、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。

1　スピーカー背面のカバーのネジをはずし、カバーを取りはずす。



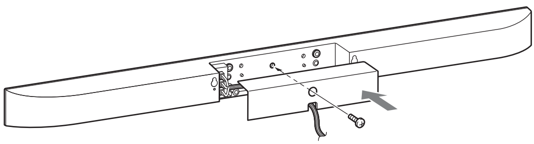
2　スピーカーコードをつなぐ。



A スピーカーコード（付属）

3　スピーカーコードをカバーの切り欠きに通し、手順1ではずしたネジでカバーを取り付ける。

スピーカーをテレビなどに取り付ける場合は、カバーを取り付けずに、「スピーカーをテレビスタンドに取り付ける」（16ページ）、「スピーカーとテレビを壁にかける」「スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける」（19ページ）の手順をおこなってください。



ご注意

- スピーカー背面にカバーを取り付ける際に、スピーカーコードを挟み込まないように注意してください。
- スピーカーやテレビを壁に取り付けるときは、スピーカーにつないだコードに足をひっかけないように注意してください。

本機のスピーカーをテレビのスタンドやフロアスタンドに取り付けるには

お客様へ

本製品の取り付けには、確実な作業が必要になります。必ず、販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。取り付け不備や、取り扱い不備、対応モデル以外でのご使用による事故、損傷については、当社では責任を負いません。

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。
しかし、まちがった使いかたをすると、火災・感電・転倒・落下などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために安全のための注意事項を必ずお守りください。

⃠ 警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電・転倒・落下などにより 死亡や大けがの原因となります。

製品を落とさない、また落下の恐れのある場所に置かない

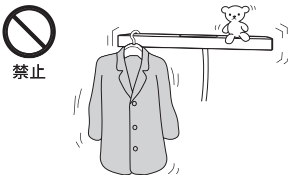
- 取り付け工事は専門業者に依頼し、取り付けのときはお子様が近づかないようにしてください。
- 専門業者以外の人が取り付けを行なうと、製品が落ち、打撲や骨折など大けがの原因となります。
- 専門業者以外の人が移動や取りはずしを行うと、製品が落下したりして、けがや破損の原因となることがあります。また、移動や取りはずしは、必ず2人以上で行ってください。
- 本機のスピーカーを取り付けたあとはネジなどをはずさないでください。製品が落ちて、けがや破損の原因となります。
- 掃除やお手入れのときは、力をかけたりしないでください。製品の落下によるけがや破損の原因となります。
- 強度の弱い壁や、平面ではなかったり垂直ではない壁に取り付けた場合、製品の落下によるけがや破損の原因となります。
- スピーカーまたはスピーカーを取り付けたテレビは、壁にしっかり取り付けないと、製品の落下によるけがや破損の原因となります。



製品にものを置かない

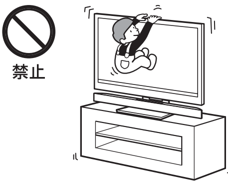
- 製品にものを置かないでください。落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。





製品に寄りかかったり、ぶら下がったりしない

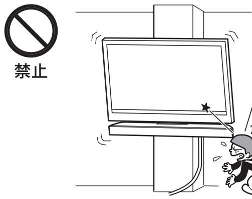
- 製品が転倒したり、落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。





取り付け場所に注意する

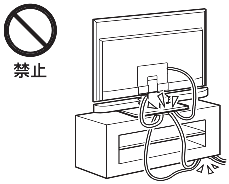
- 壁掛けユニットを、柱などの製品がはみ出してしまうような場所には取り付けないでください。身体や物などがぶつかってけがや破損の原因となります。
- 製品を雨や湿気にさらさないでください。水が入ったり、ぬれたりすると、火災や感電の原因となります。
- 湿気やほこり、湯気の多い場所、機械的振動の多い場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。
- 火のついたロウソクや燃えやすい物を近くに置かないでください。火災を防止するために、製品から離れた所に置いてください。
- エアコンの上や下には製品を取り付けないでください。送風などで直接、風が当たり続けたり、水もれによってぬれたりすると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

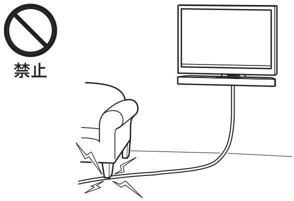


次のページへつづく

電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする

- 電源コードおよび接続ケーブルを壁面にはさんだり、無理に曲げたり、ねじったりすると、芯線が露出したり、ショート、断線して、火災や感電の原因となります。
- 製品を動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルを踏まないようにしてください。電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。





製品の通気孔をふさがない

- 製品の上に布をかけて通気孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



電源コードおよび接続ケーブルを足で引っかけない

- 転んだり、製品が転倒したりして、けがの原因となることがあります。



⃠ 注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

対応モデル以外のものに取り付けない

- 本機に付属の取り付け金具は対応モデル専用です。対応モデル以外のものに取り付けると、落下によるけがや破損の原因となることがあります。
- 製品の分解・改造は行わないでください。
- 熱いものを直接製品に置かないでください。熱により変色、変形することがあります。

テレビに本機を固定する

- 本機のスピーカーとテレビをしっかり固定してから、取り付けを行ないます。スピーカーを取り付けたテレビをラックに置いたり、壁にかけたり、フロアスタンドに取り付けたりしてください。固定しないと、本機のスピーカーとテレビが転倒したり、落下して、けがの原因となることがあります。

体重をかけたり、硬いものをぶつけない

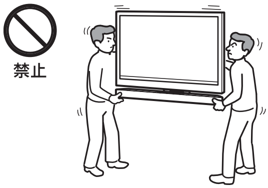
- スピーカーをテレビのスタンドに取り付ける際や、スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける際には、それらのスタンドに手をついて体重をかけたり、ドライバーなどの固いものをぶつけたりしないように注意してください。

スピーカーを取り付けたテレビを動かすときのご注意

無理に動かそうとすると、腰を痛めたり、足をけがしたりする原因になりますので、下記のことをお守りください。

- スピーカーを取り付けたテレビを動かすときは、必ずサブウーファーや、つないだ機器やコード類をはずしてから、2人以上で行ってください。

- 取り付けたテレビスタンドやフロアスタンドを動かすときは、手足を底板にはさまないように注意してください。
- 取り付けたテレビスタンドやフロアスタンドを引きずらないでください。底面の部品がはずれて、床に傷がつくおそれがあります。
- 取り付け金具を使ってテレビと本機のスピーカーを取り付けた状態のとき、本機のスピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。



設置上のご注意
- 組み立てるときは、床に傷がつくのを防ぐため、梱包材や布などを敷いてください。
- 設置場所は、堅くて平坦な床面にしてください。
- 2人以上で行ってください。1人で行うと腰を痛めたり、けがの原因となることがあります。
- 設置するときは、お子様が近づかないようにしてください。

組み立て手順に従って、しっかりと組み立てる
- ネジがゆるんでいたり抜けていると、本機のスピーカーが傾いて転倒し、落下による大けがや破損の原因となることがあります。
- 製品を組み立てるときや、取り付けるときには、手や指を傷つけないようにご注意ください。

壁にかけて使用するときのご注意
- 壁に製品を長期間取り付けてご使用されたときは、壁の材質によっては、製品の放熱により、背面や上面にあたる壁面が変色したり、壁紙がはがれたりすることがあります。
- 製品をいったん取り付けると、はずした場合に、壁にネジ穴の跡や取り付け跡が残ります。
- 雑音電波などの影響がでない場所などを事前に設置業者の方とご確認のうえ、工事を始めてください。

次のページへつづく

スピーカーをテレビスタンドに取り付ける

次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

- KDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800、KDL-40/46HX800、KDL-40/46EX700

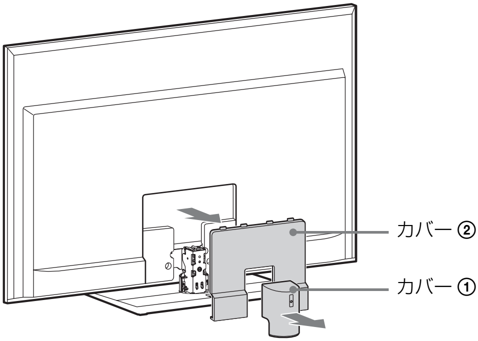
テレビスタンドの形状はモデルによって異なりますが、次の手順でスピーカーを取り付けることができます。

1 テレビの背面からカバー ①と②をはずす。

テレビの背面からカバーを取り外す手順について、詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

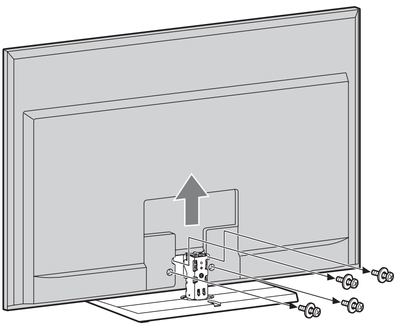
- お使いのテレビによっては、カバー ②がない場合があります。



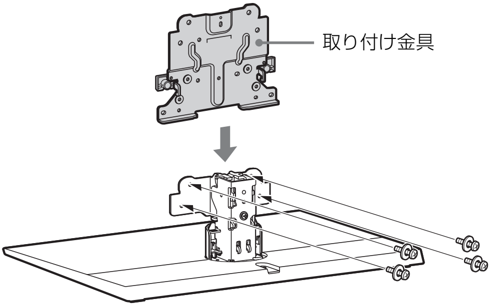
2 テレビのネジをはずし、テレビをスタンドから取りはずす。

ご注意

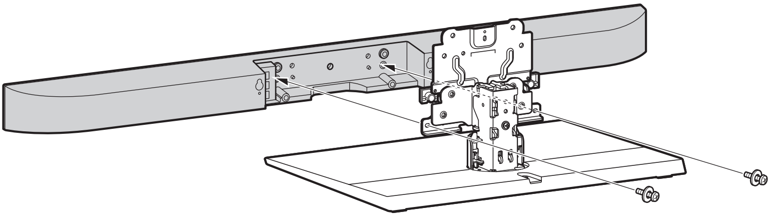
- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に、画面を下に向けて置いてください。



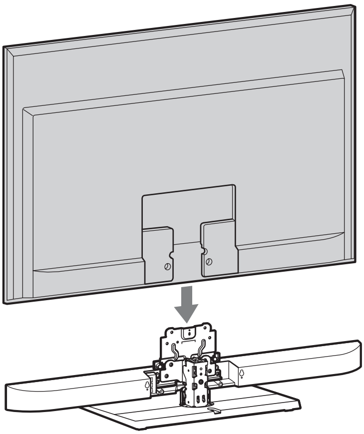
3 取り付け金具（付属）をネジ（大：+PSW5 × 16 mm）（付属）でスタンドに固定する。



4 ネジ（大：+PSW5 × 16 mm）（付属）でスピーカーを固定する。

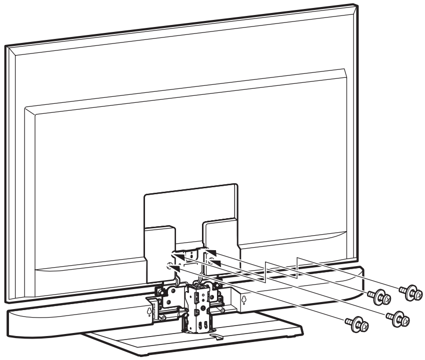


5 テレビを取り付ける。



次のページへつづく

6 手順2ではずしたネジで固定する。

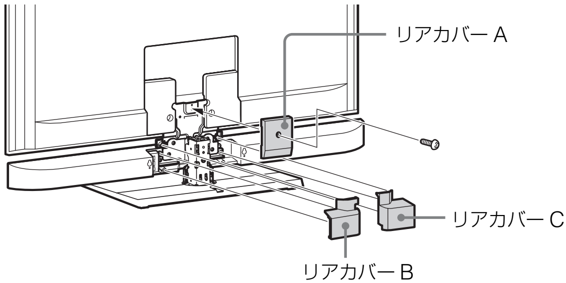


7 リアカバー（A、B、C）（付属）を取り付ける。

リアカバー Aは、ネジ（小：M3 × 8 mm）（付属）で固定します。
リアカバー Bは、切り欠きにスピーカーコードを通して、３か所の突起をはめ込みます。
リアカバー Cは、3か所の突起をはめ込みます。

ご注意

- 取り付け金具を使ってテレビとスピーカーを組み合わせた状態のとき、スピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。
- リアカバー AはKDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800に取り付ける場合に使用します。

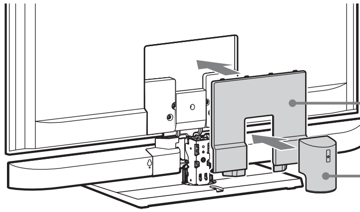


8 手順1で取りはずしたカバー ①とテレビカバー（付属）を取り付ける。

カバー ①を取り付ける手順について、詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビカバーはKDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800に取り付ける場合に使用します。（お使いのテレビにカバー ②がある場合は、テレビカバーを取り付けることができます。）



ご注意

- スピーカーをテレビスタンドに取り付けたら、転倒防止用ベルトまたは転倒防止部品のどちらかを取り付けて、転倒防止の措置を行ってください。詳しくは、「テレビに転倒防止の措置をする」（22ページ）をご覧ください。

スピーカーとテレビを壁にかける
スピーカーを取り付けたテレビをフロアスタンドに取り付ける

次のテレビ（別売）にスピーカーを取り付けることができます。

- KDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800、KDL-40/46HX800、KDL-40/46EX700

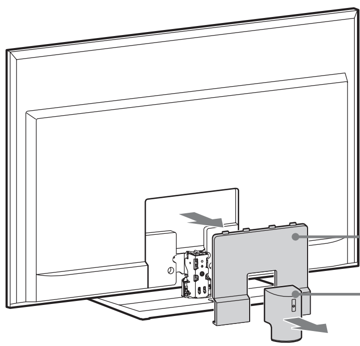
テレビを壁に取り付けるには、テレビ、および壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

1 テレビの背面からカバー ①と②をはずす。

テレビの背面からカバーを取り外す手順について、詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのテレビによっては、カバー ②がない場合があります。

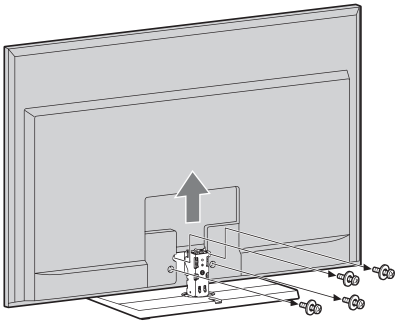


次のページへつづく

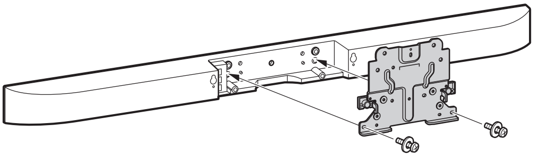
2 テレビのネジをはずし、テレビをスタンドから取りはずす。

ご注意

- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に、画面を下に向けて置いてください。



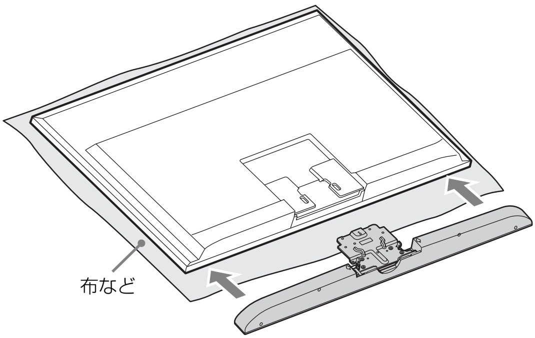
3 スピーカーと取り付け金具（付属）をネジ（大：+PSW5 × 16 mm）（付属）で固定する。



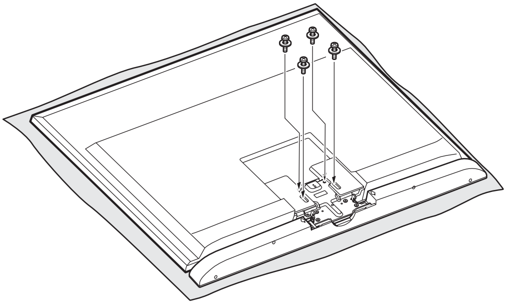
4 テレビを取り付ける。

ご注意

- テレビは、画面を傷つけないためにやわらかい厚手の布の上に画面を下に向けて置いてください。



5 手順2ではずしたネジで固定する。



6 テレビを壁に取り付ける。または、テレビをフロアスタンドに取り付ける。

テレビを壁にかける手順について、詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
テレビをフロアスタンドにかける手順について、詳しくはフロアスタンド（SU-FL71M）の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

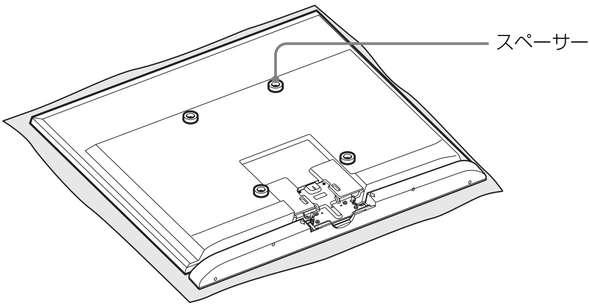
- 取り付け金具を使ってテレビと本機のスピーカーを取り付けた状態のとき、本機のスピーカーを持って動かさないでください。けがや破損の原因となることがあります。
- スピーカーをフロアスタンドに取り付けたら、転倒防止用の取り付け具を壁に固定して、転倒防止の措置を行ってください。詳しくは、「フロアスタンドを壁などに固定する」（24ページ）をご覧ください。

SU-WL500（別売）を使用して、KDL-40/46HX800、KDL-40/46EX700を壁にかける場合

設定できるチルトの角度は0度、5度のみです。チルトの角度を10度、15度、20度に設定する場合は、本機のスピーカーを直接壁にかけてください。

SU-WL700（別売）を使用して、KDL-40/46LX900、KDL-40/46NX800を壁にかける場合

テレビと壁掛けユニットの間にスペーサー（付属）をはさみ、壁掛けユニット用ネジ（付属）で固定してください。
スペーサーおよび壁掛けユニット用ネジは、本機に付属のものを使用してください。一部のテレビに付属するスペーサーは使用しないでください。



次のページへつづく

テレビに転倒防止の措置をする

転倒防止の措置をしないと、テレビが転倒して、けがの原因となることがあります。
テレビをテレビ台や壁などとつないで、転倒防止の措置を行ってください。

警告

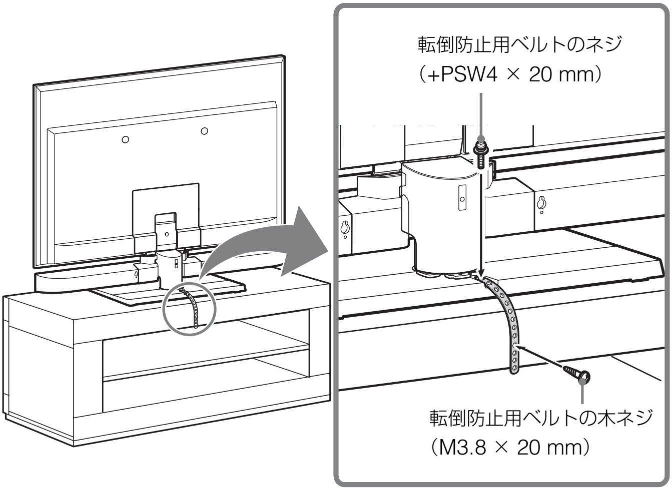
- けがを防止するために、本機のスピーカーを取り付けたテレビは、壁から25 cm未満に設置し、壁などにしっかりと固定してください。

ご注意

- テレビやテレビ台を設置するときに、指をはさまないようにしてください。
- テレビを設置するときは、テレビが後方に転倒してもテレビ台から落下しないように、テレビ背面と壁の間が25 cm未満となるようにしてください。

テレビスタンドをテレビ台などに固定する

テレビに同梱されている転倒防止用ベルトをすでにお使いの場合は、そちらをお使いください。



1 テレビをラックの中央に載せる。

2 転倒防止用ベルト（付属）をテレビにはめ込んで、ドライバーを使って、転倒防止用ベルトのネジ（+PSW4 × 20 mm）（付属）でしっかり留める。

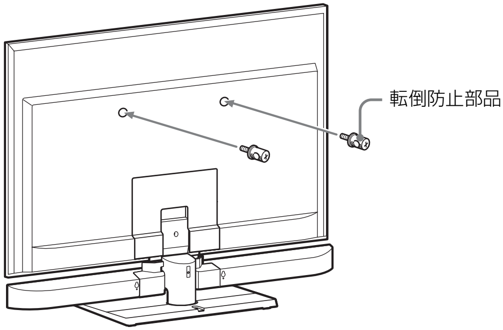
3 転倒防止用ベルト（付属）を転倒防止用ベルトの木ネジ（M3.8 × 20 mm）（付属）でラックに固定する。

テレビを壁などに固定する

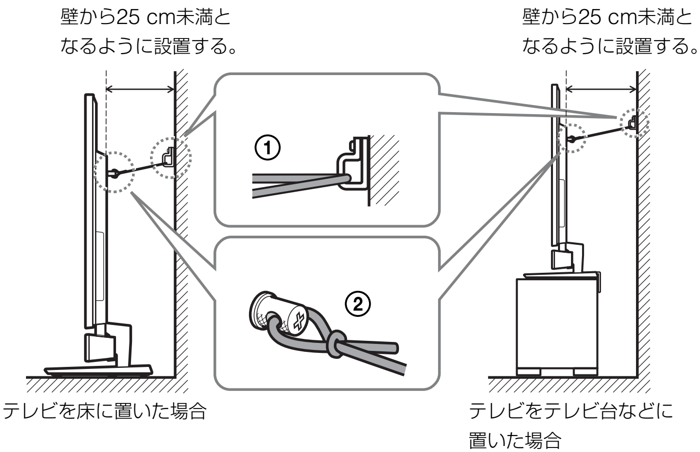
あらかじめ市販の丈夫なひもまたはクサリと、壁などにつなぐための取り付け具をご用意ください。

テレビをテレビ台などに固定する場合にも、下記の手順で、必ずテレビを壁などに固定してください。

1 テレビ背面上方のネジ穴に転倒防止部品（付属）を取り付ける。



2 しっかりした壁や柱に取り付け具（別売）を固定し（①）、転倒防止部品にひもやクサリ（別売）などを通して、壁側の取り付け具にしっかりつなぐ（②）。



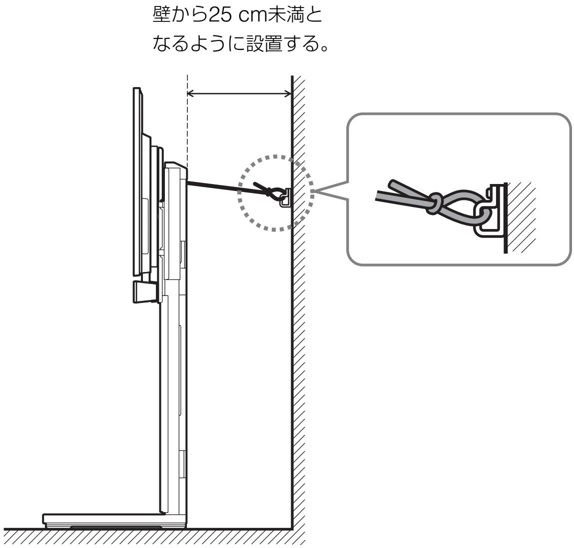
次のページへつづく

フロアスタンドを壁などに固定する

あらかじめ市販の丈夫なひもまたはクサリと、壁などにつなぐための取り付け具をご用意ください。

1 しっかりした壁や柱に取り付け具（別売）を固定し、フロアスタンドに取り付けたひもまたはクサリをしっかりつなぐ。

フロアスタンドにひもまたはクサリを取り付ける手順について、詳しくはフロアスタンドの取扱説明書をご覧ください。



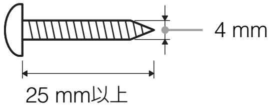
スピーカーを壁に取り付ける

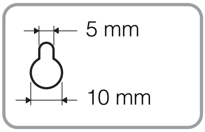
下記の手順でスピーカーを壁に取り付けることができます。

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

1 スピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。

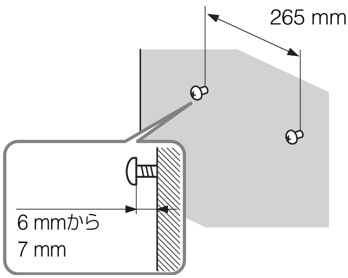




スピーカー背面の穴

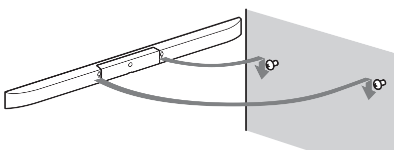
2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から6 mmから7 mm突き出すようにとめてください。



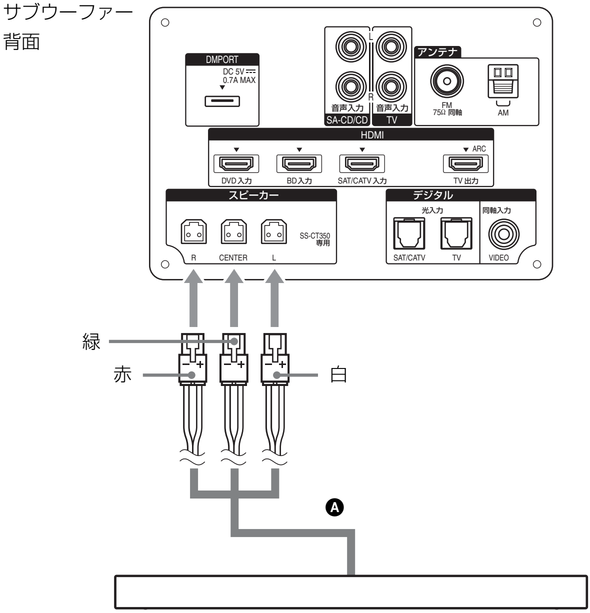
3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

スピーカー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2箇所同時に取り付けてください。



スピーカーをつなぐ

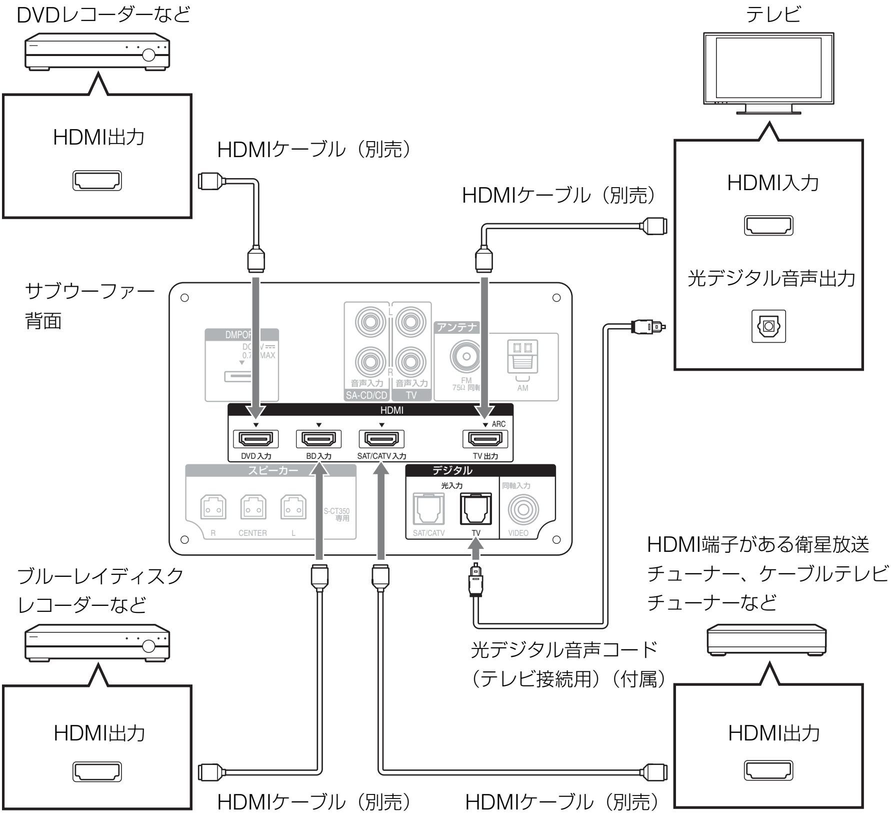
スピーカーコードのコネクターはスピーカーの種類に合せて色分けされています。スピーカーコードは、コネクターと同じ色のスピーカー端子につないでください。



Aスピーカーコード（付属）

テレビやレコーダーなどをつなぐ

HDMI端子があるテレビやレコーダー、衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーなどは、HDMIケーブルをつなぎます。
“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルでつなぎ、つないだ機器の設定をテレビ側で行うと、便利な「“ブラビアリンク”機能」が使えます（46ページ）。



ご注意

- 本機はARC（オーディオリターンチャンネル）機能に対応しています。ARC機能に対応しているテレビのHDMI入力端子につないだ場合、光デジタル音声コードの接続は不要です。ARC機能について、詳しくは「ARC（オーディオリターンチャンネル）をオフ（切）にする」（51ページ）をご覧ください。
- ARC機能に対応しているテレビのHDMI入力端子には「ARC」と表記されています。それ以外のHDMI入力端子につないでも、ARC機能は働きません。
- ARC機能はHDMI機器制御機能がオン（入）のときに有効です。
- “プレイステーション３”などは、本機の空いているHDMI入力端子につないでください。本機のHDMI入力端子の機能はどれも同じです。
- 機器を同軸入力端子や光入力端子とHDMI端子に同時につないだ場合、HDMI端子からの信号が優先されます。

次のページへつづく

- 光デジタル音声出力端子がないテレビの場合は、アナログ音声コード（別売）でテレビのアナログ音声出力端子と本機のTV音声入力端子を接続してください。

ちょっと一言

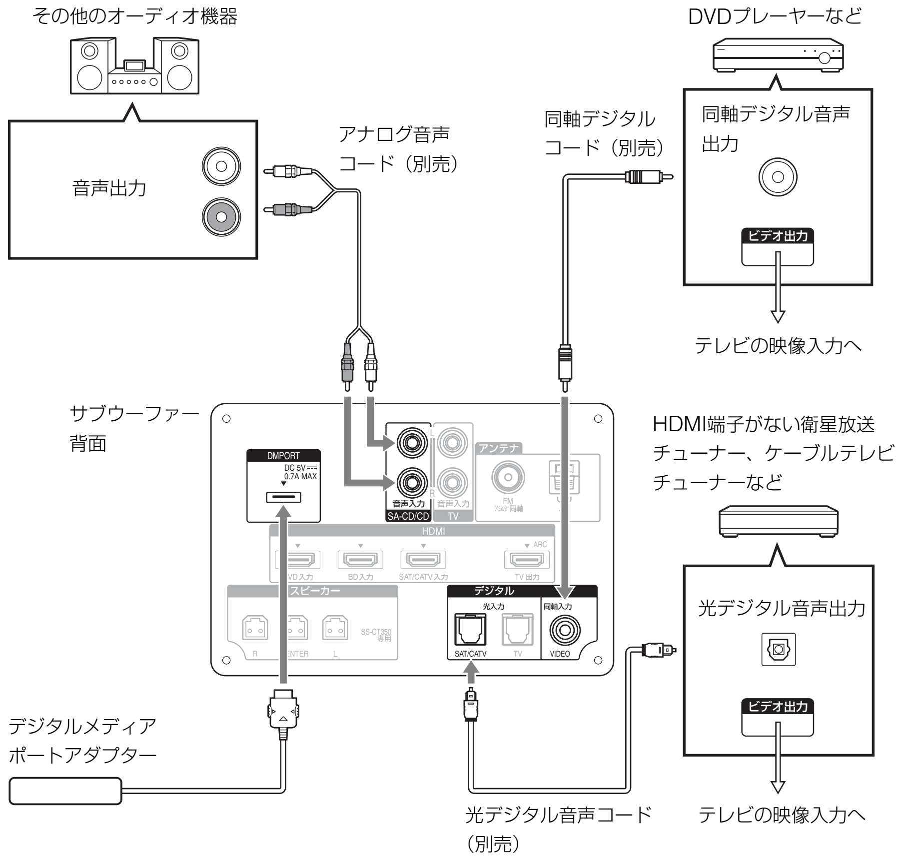
- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機の入力が「TV」、「DMPORT」、「SA-CD/CD」、「VIDEO」、「TUNER FM」または「TUNER AM」のときは、HDMI TV出力端子からは前回選択されたHDMI入力（BD、DVDまたはSAT/CATV）の映像が出力されます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”および3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“プレイステーション3”など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

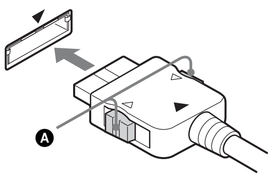
その他の機器をつなぐ

HDMI端子のない“プレイステーション2”やDVDプレーヤー、衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーなどをつなぐ場合は、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください（47ページ）。



ご注意

- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取りはずすときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。



アンテナをつなぐ

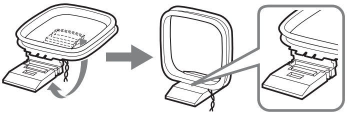
AMループアンテナをつなぐ

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（〰）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

2 組み立てる。

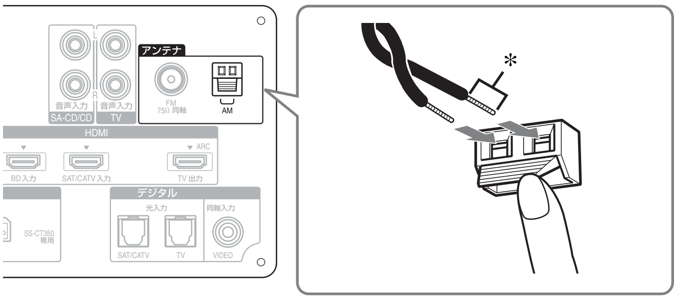
台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

レバーを指で押しながら、コードの（*）の部分を差し込んでください。
コードはどちらの端子にもつなぐことができます。

サブウーファー背面



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

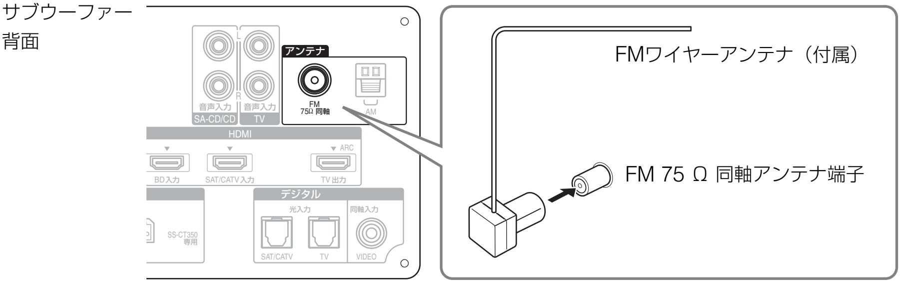
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMワイヤーアンテナをつなぐ

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。

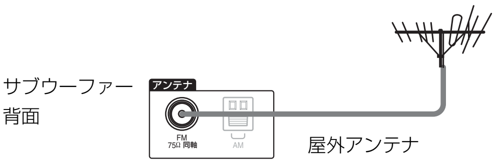


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



電源コードをつなぐ

他の機器やテレビをつないでから、本機の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

ご注意

- 電源コードをつないで約20秒待ってから、リモコンの電源ボタンまたはサブウーファーのI/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れてください。
- 本機は、コンセントの近くでお使い下さい。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断して下さい。

つないだ機器の音声出力を設定する

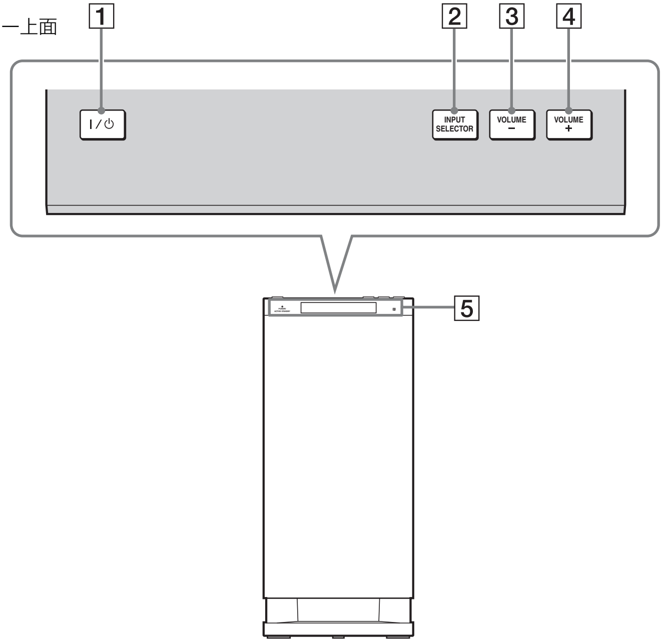
マルチチャンネル音声（AAC、DTS、Dolby Digital、マルチチャンネルLPCM）を楽しむには、つないだ機器の音声出力設定が必要になります。マルチチャンネル音声で音声を出力するように、つないだ機器を設定してください。音声出力の設定については、つないだ機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

サブウーファー（本機）

サブウーファー上面



1 **I/⏻（電源）ボタン**

2 **INPUT SELECTOR（入力切換）ボタン**

再生する入力ソースを選びます。
押すたびに次のように切り換わります。
TV → BD → DVD → SAT/CATV → VIDEO → SA-CD/CD → TUNER FM → TUNER AM → DMPORT → TV…

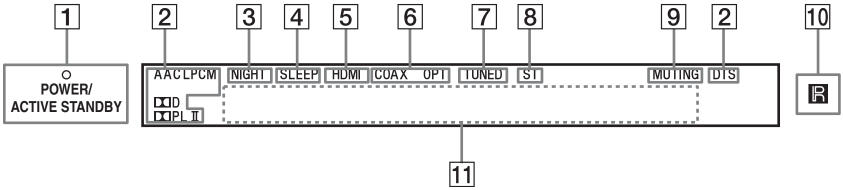
3 **VOLUME（音量）－ボタン**

4 **VOLUME（音量）＋ボタン**

5 **表示窓**

次のページへつづく

表示窓（サブウーファー）



1 POWER/ACTIVE STANDBY（パワー/アクティブ スタンバイ）

以下のように点灯します。
緑：電源が入っているとき。
オレンジ：本機のHDMI部分にのみ電源が入っているとき（HDMI機器制御機能がオン（入）のとき）。
消灯：電源が切れているとき。

ご注意

- オレンジのランプは、テレビの電源を切ってから約30秒後に消灯します。ただし、「PASS THRU」が「ON」のときは消灯しません。

2 音声フォーマット表示

本機に入力されている音声フォーマットが点灯します。
D：ドルビーデジタル
PLII：ドルビープロロジックII
AAC：Advanced Audio Coding
LPCM：リニアPCM
DTS

3 NIGHT（60ページ）

NIGHT MODEのときに点灯します。

4 SLEEP（61ページ）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

5 HDMI（27ページ）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。または、本機の入力が「TV」の場合、ARCの信号が入力されているときに点灯します。

6 COAX/OPT

COAX（同軸入力）、OPT（光入力）のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

7 TUNED（40ページ）

ラジオ局を受信したときに点灯します。

8 ST（40ページ）

ステレオ放送を受信したときに点灯します。

9 MUTING

消音機能が有効になっているときに点灯します。

10 リモコン受光部

11 メッセージ表示領域

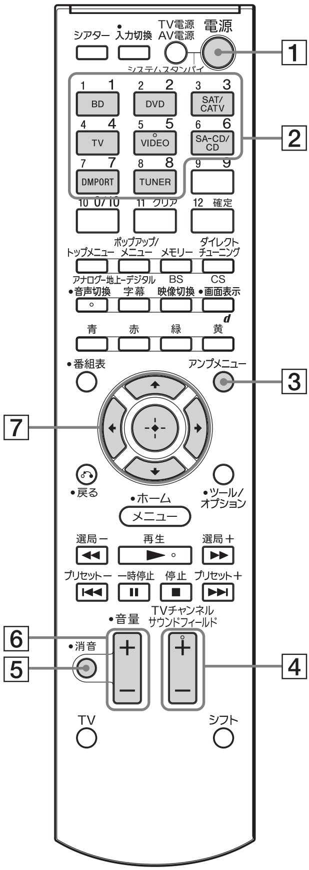
音量や選ばれている外部入力、入力された音声信号の種類などを表示します。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。つないだ機器の操作については、53ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、本機のリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。



＊ 数字ボタンの5、および音声切換ボタン、►ボタン、サウンドフィールド+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

1 **電源ボタン**

2 **入力ボタン**

使用する機器を選びます。

3 **アンプメニューボタン（58ページ）**

4 **サウンドフィールド＋／－ボタン（44ページ）**

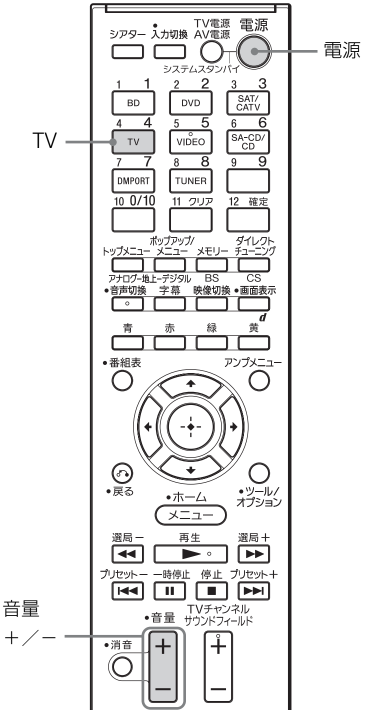
5 **消音ボタン**

6 **音量＋／－ボタン**

7 **←/↑/↓/→、⊕**

←、↑、↓、→ボタンを押して設定を選び、⊕ボタンで決定します。

テレビの音声を聞く



1 **テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。**
詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

2 **本機の電源を入れる。**

3 **リモコンのTVボタンを押し、本機の表示窓に「TV」と表示させる。**

4 **音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。**

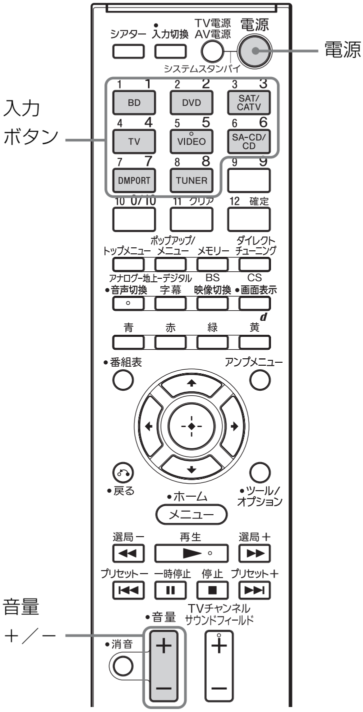
ちょっと一言
- ソニー製テレビをつないでいる場合、TVボタンを押すだけで、自動的にテレビの音声入力を切り換え、テレビの映像を表示します。設定を変えるときは、「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（56ページ）をご覧ください。
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

“ブラビアリンク”をお使いのときは（システムオーディオコントロール）

手順2から3は不要です。テレビの電源を入れると、自動的に本機の電源が入り、入力が切り換わります。
また、テレビのリモコンで本機の音量を調節することができます。
本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音が出ます。
ブラビアリンクの設定方法について、詳しくは「“ブラビアリンク” 機能」（46ページ）をご覧ください。

ちょっと一言
- テレビのスピーカーから音が出ている状態でテレビの電源を切った場合、次にテレビの電源を入れても、本機の電源は入りません。

つないだ機器の音声を聞く



1 つないだ機器を再生する。

2 本機の電源を入れる。

3 再生したい機器の入力ボタンを押して、本機の表示窓に入力名を表示させる。

選んだ入力	再生する機器
TV	TV端子につないだテレビなど
BD	BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
DVD	DVD端子につないだDVDレコーダーなど
SAT/CATV	SAT/CATV端子につないだBS/CSチューナーなど
VIDEO	VIDEO端子につないだDVDプレーヤーなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだオーディオ機器など
TUNER FM*	内蔵のFMラジオ
TUNER AM*	内蔵のAMラジオ
DMPORT	デジタルメディアポート端子につないだポータブルオーディオプレーヤーなど

* TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。

4 映像機器の場合、テレビの入力を、本機につないでいるHDMI入力に切り換える。

詳しくはテレビに付属の説明書をご覧ください。

5 音量＋／－ボタンで本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した機器で、これらの音源を再生した場合、本機ではドルビーデジタルまたはDTSとして処理されます。Dolby True HDなどの高品質サウンドフォーマットを選択している際は、可能であればつないだ機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

次のページへつづく

ご注意

- デジタルメディアポート端子の映像出力端子を、テレビの映像入力端子につないでいる場合、本機のHDMI機器制御機能をオフ（切）にしてください（47ページ）。HDMI機器制御機能がオン（入）のままでは、デジタルメディアポート端子につないだ機器の映像を見ることができません。
- HDMI機器制御機能をオン（入）にしている場合、映像を表示せずに音声だけを楽しむには、テレビの電源を切ったあとに、本機の電源を入れなおしてください。
  本機の電源を入れたあとにテレビの電源を切ると、HDMI機器制御機能が働き、テレビにつないだ機器すべての電源が切れてしまいます。

“ブラビアリンク”をお使いのときは（ワンタッチプレイ）

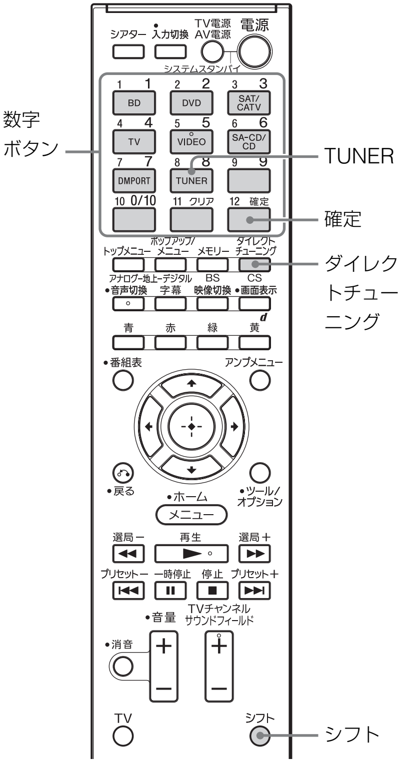
手順2から4は不要です。つないだ機器を再生すると、自動的に本機とテレビの電源が入り、入力が切り換わります。
また、テレビのリモコンで本機の音量を調節することができます。
ブラビアリンクの設定方法について、詳しくは「“ブラビアリンク”機能」（46ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーから音が出ている状態でテレビの電源を切った場合、次にテレビの電源を入れても、本機の電源は入りません。

ダイレクト選局

数字ボタンで聞きたい放送局の周波数を選んで、放送局を受信できます。



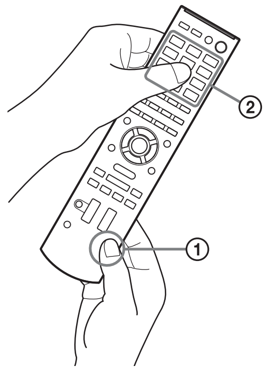
1 TUNERボタンを押す。

TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。
本体のINPUT SELECTORを使うこともできます。

2 ダイレクトチューニングを押す。

3 シフトボタン（①）を押しながら、数字ボタン（②）を押して、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。

例：「88.0MHz」を選局するときは、シフトボタンを押しながら次のように数字ボタンを押します。
8 → 8 → 0



4 シフトボタンを押しながら、確定ボタンを押す。

ちょっと一言

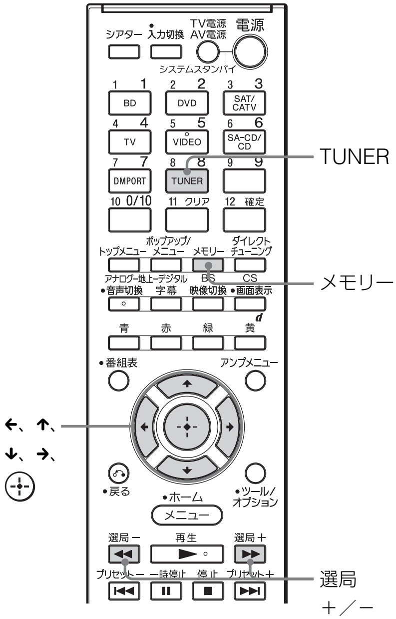
- AM放送を受信するときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

放送局を受信できないときは

正しい周波数が入力されているか確認してください。正しい周波数が入力されていない場合は、手順2 ～ 4をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合は、入力した周波数が使われていない可能性があります。

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。よく聞く放送局は登録しておくと便利です。受信を始める前に、音量を最小にしてください。



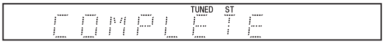
1 **TUNERボタンを押す。**
TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。

2 **選局－／＋ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。**
周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「TUNED」、「ST」（FM局のステレオ放送を受信したとき）が点灯します。

3 **メモリーボタンを押す。**

4 **↑/↓でプリセット番号を選ぶ。**

5 **⊕を押す。**
表示窓に「COMPLETE」と表示され、放送局が登録されます。

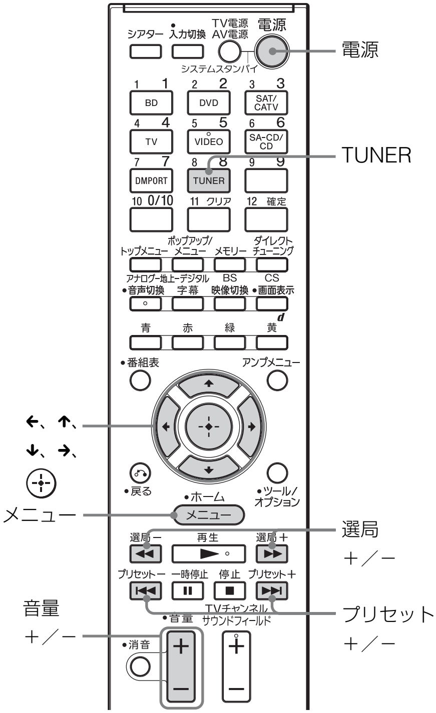


6 **手順2～5を繰り返して、他の放送局を登録する。**

プリセット番号を変えるには
手順3から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する （プリセット)」（40ページ）で放送局を登録してください。



1 TUNERボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。

2 プリセット+／−ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

シフトボタンを押しながら数字ボタンを押して、登録した放送局の番号を選ぶこともできます。

3 音量を調節する。

ラジオを消すには

リモコンの電源ボタンまたは本機のI/⏻（電源）ボタンを押します。または他の入力ファンクションに切り換えます。

登録していない放送局を聞くには

手動または自動で受信します。

手動受信は、「ダイレクト選局」（39ページ）をご覧ください。

自動受信は、手順2でリモコンの選局＋または－を押し続けます。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

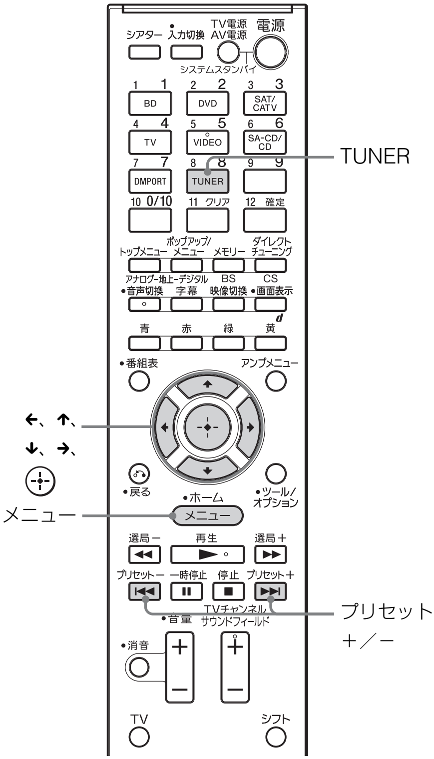
1 メニューボタンを押す。
2 ↑/↓で表示窓の「FM MODE」を選び、⊕または→を押す。
3 ↑/↓で「MONO」を選ぶ。
   お買い上げ時の設定は下線の項目です。
   - <u>STEREO</u>：ステレオ放送をステレオ受信します。
   - MONO：モノラル受信します。
4 ⊕を押す。
5 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。
文字は10字まで入力できます。
登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。

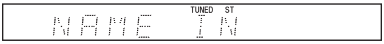


1 TUNERボタンを押す。
最後に受信した放送局が受信されます。
TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。

2 プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。

3 メニューボタンを押す。

4 ↑/↓で表示窓の「NAME IN」を選ぶ。



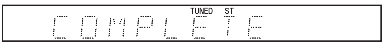
5 ⊕を押す。

6 ←、↑、↓、→で名前をつける。
↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。

7 ⊕を押す。
表示窓に「COMPLETE」が表示され、放送局の名前が登録されます。



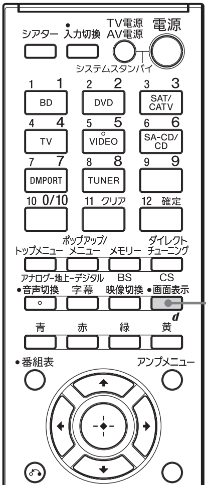
8 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示窓で周波数を確認することができます（43ページ）。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」または「AM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。



画面表示

画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り換わります。

① 放送局名*

② 周波数**

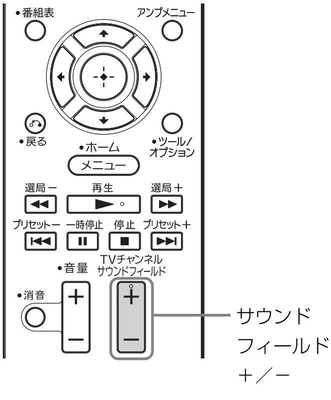
* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます。

**数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

サラウンド効果を楽しむ

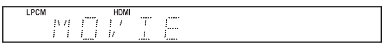
サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールド＋／－ボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。



サウンドフィールド＋／－ボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。
STANDARD ←→ MOVIE ←→ DRAMA ←→ NEWS ←→ SPORTS ←→ GAME ←→ MUSIC ←→ 2CH STEREO ←→ P.AUDIO ←→ STANDARD .....

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD*	どんなソースにも幅広く対応します。
MOVIE*	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
DRAMA*	テレビドラマに最適な音質で楽しめます。
NEWS*	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
SPORTS*	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAME*	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
MUSIC*	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。
2CH STEREO	音楽CDに最適な音質です。
P.AUDIO**	携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

* 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、表示されません。
** 「DMPORT」を選択しているときのみ表示されます。

ちょっと一言

- サウンドフィールドは入力ごとに設定できます。
- サウンドフィールドのお買い上げ時の設定は、入力が「DMPORT」のときは「P.AUDIO」、その他の入力のときは「STANDARD」です。
- 入力切換ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、センタースピーカーから音が出ません。
- モノラル放送時など、入力信号によっては、音の出ないスピーカーがあります。

- 「2CH STEREO」または「P.AUDIO」を選んだ場合は、センタースピーカーからは音が出ません。
- アンプメニューで「CTRL HDMI」が「ON」に設定され、かつ「SOUND.FIELD」が「AUTO」に設定されているときは、視聴中のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り換わります（49ページ）。
- 「CTRL HDMI」が「ON」のときに、ソニー製テレビのリモコンのシアターボタンを押すと、サウンドフィールドが「MOVIE」に切り換わります（一部のソニー製テレビをのぞく）。

“ブラビアリンク”とは？

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ（48ページ）
- システムオーディオコントロール（48ページ）
- 電源オフ連動（50ページ）
- オートジャンルセレクター（49ページ）

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

次の場合、HDMI機器制御機能は正しく働きません。

- HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応していない機器をつないだとき
- 本機と各機器をHDMIケーブル以外でつないだとき
- ソニー製品以外のHDMI機器制御対応機器につないだとき

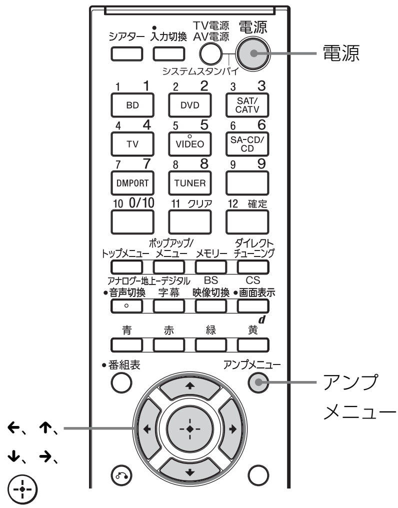
本機には、“ブラビアリンク”に対応した機器をつなぐことをおすすめします。

ご注意

- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う準備をする

“ブラビアリンク”を使うには、つないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定してください。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。



1 本機とテレビ、つないだ機器がHDMIケーブルでつながれていることを確認する。

2 本機とテレビ、つないだ機器の電源を入れる。

3 つないだ機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を切り換える。

4 テレビのメニュー画面にHDMI機器一覧を表示し、つないだ機器のHDMI制御を有効にする。

本機とつないだ機器側のHDMI機器制御機能が自動的にオン（入）に設定されます。
設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

ご注意

- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

「COMPLETE」が表示されないときは

本機とつないだ機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1. アンプメニューボタンを押す。
2. ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
3. ↑/↓を繰り返し押して「CTRL HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
4. ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
5. アンプメニューボタンを押す。
   アンプメニュー画面表示が消え、HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
6. HDMI機器制御機能を使用したい機器の入力（SAT/CATV、DVDまたはBD）を本機で選択する。
7. つないだ機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
   つないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機に再生機器を追加したり、再接続するときは

「“ブラビアリンク”を使う準備をする」（46ページ）や「「COMPLETE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

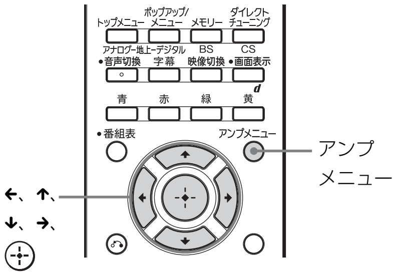
- テレビの「HDMI機器制御」によって、つないだ機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、つないだ機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- 本機のHDMI機器制御機能は、工場出荷時にオン（入）に設定されています。

HDMI機器制御機能をオフ（切）にする

“ブラビアリンク”に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときなどは、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、「CTRL HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

次のページへつづく

5 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニュー画面表示が消えます。

ブルーレイディスクを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

つないだ機器を再生する。

テレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り換わります。

ちょっと一言

- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

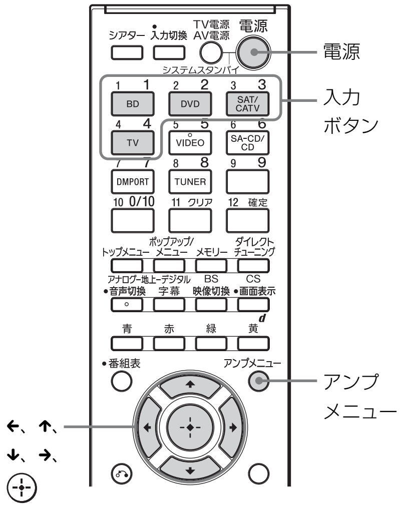
ご注意

- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

テレビのリモコンによる簡単な操作でテレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。また、音量調整と消音ができます。
詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音が出ます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから音が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れてから音声が出力されるまでに、時間がかかることがあります。
- お使いのテレビによっては、テレビの音量を変えたときと同じように、画面に本機の音量を示す数字が表示されますが、画面の数字と本機の表示窓の数字が異なることがあります。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「SOUND.FIELD」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**
- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールド＋／－ボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 **アンプメニューボタンを押す。**
アンプメニュー画面表示が消えます。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARD

ご注意
- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り換わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

次のページへつづく

3 **↑/↓を繰り返し押して「VOL LIMIT」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して設定値を決める。**

ボタンを押すごとに、設定値が切り換わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ..... 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- この機能は、音声出力が本機からテレビに切り換わるときには働きません。

ちょっと一言

- 設定値は、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定値の大きさにかかわらず、本機とリモコンの音量＋／－ボタンを使って音量を調整できます。
- この機能を使用しない場合は、「MAX」を選択してください。

リモコンの入力ボタンを使う

HDMI機器制御機能がオン（入）のとき、入力ボタン（BD、DVD、SAT/CATV、TV）は次のように作動します。

- BD、DVD、SAT/CATVボタン：押すだけで、テレビ入力も自動的に切り換わり、選んだ再生機器の映像をテレビで見ることができます。
- TVボタン：押すだけで、テレビ入力が自動的に切り換わります。ソニー製のテレビをつないでいる場合、簡単にテレビを見ることができます。

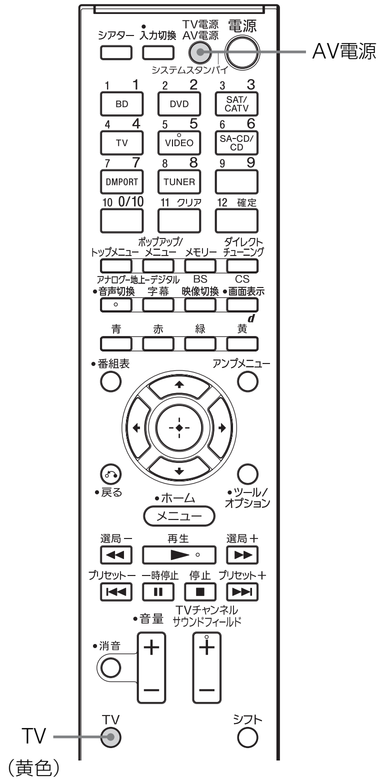
ちょっと一言

- 入力ボタンを押して、つないだソニー製機器を操作することができます。詳しくは「つないだ機器をリモコンで操作する」（53ページ）をご覧ください。

テレビと本機、つないだ機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ機器の電源を自動的に切ることができます。



TV（黄色）ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

テレビと本機、つないだ機器の電源が切れます。

ご注意

- 本機やつないだ機器の状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

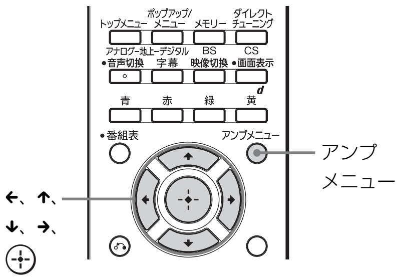
省電力機能を使う

（HDMI信号パススルー）

“ブラビアリンク”を設定すると、本機がスタンバイの状態でも、テレビでブルーレイディスクなどの映像や音声を楽しむことができます。また、「PASS THRU」を「AUTO」に設定すると、テレビの電源に連動して、本機のスタンバイ時の消費電力を自動的に削減できます。
お買い上げ時の設定は「AUTO」です。

ご注意

- 「CTRL HDMI」が「ON」のとき、この機能は使えます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して、「PASS THRU」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- 「AUTO」：本機のスタンバイ時に、テレビの電源を入れると本機のHDMI出力端子から信号を出力します。“ブラビアリンク”対応のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。「ON」設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。
- 「ON」：本機のスタンバイ時に、HDMI出力端子から常に信号を出力します。

ご注意

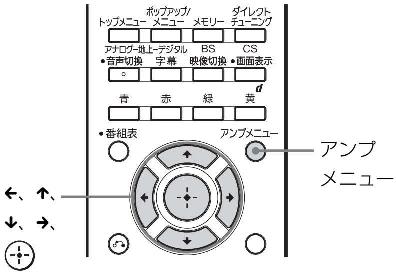
- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。

5 **アンプメニューボタンを押す。**
アンプメニュー画面表示が消えます。

ARC（オーディオリターンチャンネル）をオフ（切）にする

ARC（オーディオリターンチャンネル）に対応したテレビを、HDMIケーブルで本機につなぐと、テレビのデジタル音声信号が本機に伝送されます。その場合、光デジタル音声コードなどをつなぐ必要はありません。
ARCを使用しない場合はテレビと本機を光デジタル音声コードでつなぎ、本機のアンプメニューで「ARC」をオフ（切）に設定してください。

次のページへつづく



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「ARC」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。**

- 「ON」：ARCをオン（入）にします。
- 「OFF」：ARCをオフ（切）にします。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

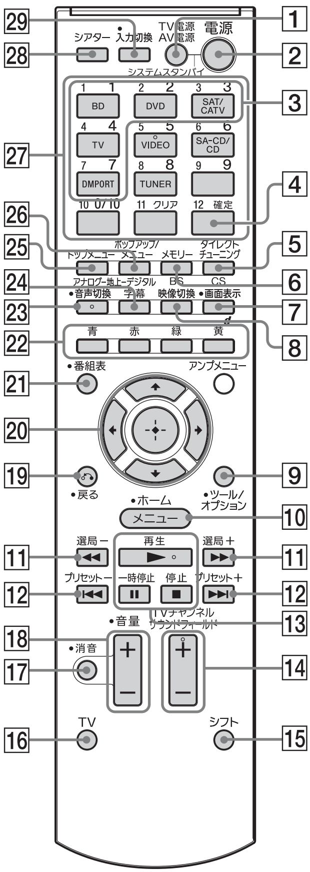
アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- HDMI機器制御機能をオフ（切）に設定しているときは、ARC機能は使用できません。また、設定を行うこともできません。

つないだ機器をリモコンで操作する

ソニー製の機器を本機のリモコンで操作できます。つないだ機器によっては、操作できない場合があります。そのようなときは、各機器のリモコンから操作してください。



＊ 数字ボタンの5、および音声切換ボタン、► ボタン、サウンドフィールド+ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

つないだ機器を操作するには

1 操作したい機器を登録した入力ボタン3（BD、DVD、SAT/CATV、TV、DMPORT）を押す。

選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 次の表を参照して、ボタンを押す。

共通する操作

ボタン	機能
1 TV電源 AV電源 （電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作できるソニー製のテレビ、オーディオ、ビデオの電源を入／切します。1TV電源／AV電源ボタンと2電源ボタンを同時に押して、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
4 確定	15シフトボタンを押しながら、4確定ボタンを押して選択を確定します。
20 ←、↑、↓、→、(+)	矢印ボタンで項目を選び、(+)で確定します。
22 カラーボタン	テレビ画面に操作ガイドを表示します（表示されない場合もあります）。ガイドに従って操作してください。
27 数字ボタン	チャンネルやトラック、チャプターなどを選びます。テレビの場合は、16TV（黄色）ボタンを押しながら、27数字ボタンを押します。12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。 他の機器の場合は、15シフトボタンを押しながら、ピンクのプリントがされた27数字ボタンを押します。

次のページへつづく

テレビを操作するには

1 16TV（黄色）ボタンを押しながら、黄色の点がついたボタンまたは黄色のプリントがされたボタンを押す。

ボタン	機能
5 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます。
6 BS	BSデジタル放送に切り換えます。
7 画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
9 ツール／オプション	そのときできる便利な機能を一覧表示します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。
14 TVチャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。
17 消音	消音します。
18 音量＋／－	音量を調節します。
19 戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
21 番組表	番組表を表示します。
23 音声切換	音声フォーマットや言語を切り換えます。
25 地上アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
26 地上デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
28 シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、画面を暗くするなど映画に適した設定を自動的に行います。 また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能がオン（入）の場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。
29 入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン	機能
8 映像切換	マルチアングルで録画されたディスクを再生する場合、映像のアングルを変更します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
11 ◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
12 I◀◀／▶▶I	前や次のタイトル／チャプターの先頭に進みます。
13 ▶（再生）／II（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
20 ←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
24 字幕	字幕対応のディスクを再生する場合、字幕の言語を選びます。
25 トップメニュー	トップメニューやディスクメニューを表示します。
26 ポップアップ／メニュー	BD-ROMのポップアップメニュー、またはディスクのメニューを表示します。
29 入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン	機能
8 映像切換	マルチアングルで録画されたディスクを再生する場合、映像のアングルを変更します。
10 メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。

ボタン		機能
11	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
12	⏮/⏭	チャプターをスキップします。
13	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
20	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
24	字幕	字幕対応のディスクを再生する場合、字幕の言語を選びます。
25	トップメニュー	トップメニューやディスクメニューを表示します。
26	ポップアップ／メニュー	BD-ROMのポップアップメニュー、またはディスクのメニューを表示します。
29	入力切換	入力を切り換えます。

衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

ボタン		機能
7	画面表示	画面表示が切り換わります。
10	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
20	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。
21	番組表	番組表を表示します。
24	字幕	字幕がある番組で、字幕を表示します。

デジタルメディアポートにつないだ機器を操作するには

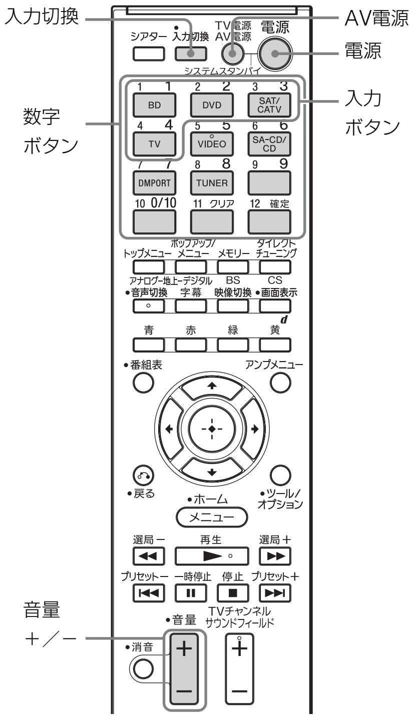
ボタン		機能
7	画面表示	表示窓の設定を選びます。
10	メニュー	基本の操作が一覧表示されます。
11	◀◀／▶▶	再生中のデータの早戻し／早送りをします。
13	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
19	戻る	ひとつ前の操作に戻ります。
20	←、↑、↓、→、⊕	矢印ボタンでメニュー項目を選び、⊕で選んだ項目を確定します。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのVIDEO、SA-CD/CD、DMPORT、TUNERボタンの設定は変更できません。



1 **登録したい入力ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。**
例：DVDボタンを押しながらAV電源ボタンを押す。

2 **AV電源ボタンを押したまま、手順1で押している入力ボタンをはなす。**
例：AV電源ボタンを押したまま、DVDボタンをはなす。

3 **AV電源ボタンを押したまま、次の表を参照して、登録したい機器の数字ボタンを押す。**
例：AV電源ボタンを押したまま、1を押す。

4 **手順3で押した数字ボタンをはなし、次にAV電源ボタンをはなす。**
例：1をはなし、次にAV電源ボタンをはなす。
DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できます。

お使いの機器をBD、DVD、SAT/CATV、TVボタンに登録するには

機器	数字ボタン
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	1
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）[1]	2
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	3
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）[2]	4
TV [3]	5
TV [3] [4]	6
CSデジタルチューナー	7

[1] お買い上げ時は、BDボタンに登録されています。
BD1とBD3の設定について、詳しくはブルーレイディスクプレーヤー、またはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

[2] お買い上げ時は、DVDボタンに登録されています。
ソニー製のDVDレコーダーは、DVD1またはDVD3で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
[3] TVボタンの設定によって操作内容が異なります。
[4] CATVチューナーを登録する場合は、この設定をおすすめします。

リモコンに登録した設定を消去するには

リモコンの音量－ボタンを押しながら、続けて電源ボタンを押し続け、最後に入力切換ボタンを押し続けます。最後にすべてのボタンをはなします。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

アンプメニューの設定をする

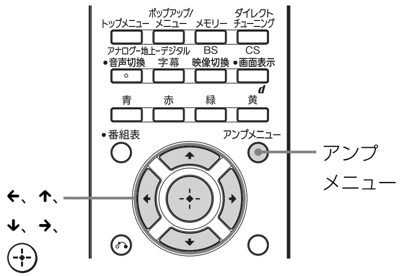
アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

AMP MENU

- LEVEL
  - CNT LEVEL — –6, –5, … 0, … +5, +6
  - SW LEVEL — –6, –5, … 0, … +5, +6
  - AUDIO DRC — MAX / STD / OFF
- TONE
  - BASS — –6, –5, … 0, … +5, +6
  - TREBLE — –6, –5, … 0, … +5, +6
- AUDIO
  - A/V SYNC — ON / OFF
  - DUAL MONO — MAIN / SUB / MAIN/SUB
  - NIGHT MODE — ON / OFF
  - INPUT MODE — AUTO / OPT
- SET HDMI*
  - CTRL HDMI — ON / OFF
  - VOL LIMIT** — MAX, 49, 48, … 2, 1, MIN
  - SOUND. FIELD** — AUTO / MANUAL
  - PASS THRU** — AUTO / ON
  - ARC** — ON / OFF
- SYSTEM
  - DIMMER — ON / OFF
  - DISPLAY — ON / OFF
  - SLEEP — OFF, 10M, 20M, … 80M, 90M
  - AUTO STBY — ON / OFF

* 詳しくは「“ブラビアリンク”機能」（46ページ）をご覧ください。
**これらの設定は「CTRL HDMI」が「ON」のときだけ表示されます。



1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

ちょっと一言

- 電源コードを抜いても、設定は保持されます。

これからのページはアンプメニューの各設定について説明します。

スピーカーレベルを設定する（CNT LEVEL、SW LEVEL）

センタースピーカーとサブウーファーのレベルを設定することができます。

1 アンプメニュー画面で「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「CNT LEVEL」または「SW LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

- 「CNT LEVEL」：センタースピーカーのレベルを調節します。
- 「SW LEVEL」：サブウーファーのレベルを調節します。

3 設定値を選び、⊕を押す。

「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。

1 アンプメニュー画面で「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「AUDIO DRC」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。

- 「OFF」：信号の幅は圧縮されません。
- 「STD」：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。

音質を調整する（BASS、TREBLE）

音声の低域、高域のレベルを簡単に調整することができます。

1 アンプメニュー画面で「TONE」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「BASS」または「TREBLE」を表示させ、⊕または→を押す。

- 「BASS」：音声の低域を調整します。
- 「TREBLE」：音声の高域を調整します。

3 設定値を選び、⊕を押す。

「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。

1 アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

次のページへつづく

2 「A/V SYNC」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。

- 「OFF」：A/V SYNC機能を使わない。
- 「ON」：A/V SYNC機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

ご注意

- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合があります。
- この機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。

1 アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「DUAL MONO」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。

- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。
- 「MAIN/SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

小さな音量で聞く（NIGHT MODE）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。

1 アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「NIGHT MODE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。

- 「ON」：NIGHT MODEに設定されます。
- 「OFF」：NIGHT MODEに設定されません。

ちょっと一言

- AUDIO DRC（59ページ）を使うと、小さな音量でもドルビーデジタルを楽しめます。

衛星放送チューナーからの音声を選択する（INPUT MODE）

衛星放送チューナーによっては、HDMIケーブルをHDMI SAT/CATV入力端子につないだだけでは、マルチチャンネル音声を出力できないことがあります。
その場合は、光デジタル音声コードをSAT/CATV光デジタル音声入力端子につないだうえで、この設定をおこないます。

1 アンプメニュー画面で「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「INPUT MODE」を表示させ、⊕または→を押す。

3 「OPT」を選び、⊕を押す。
- 「AUTO」：HDMI SAT/CATV入力端子からの音声信号を優先して出力します。
- 「OPT」：SAT/CATV光デジタル音声入力端子からの信号を出力します。

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「DIMMER」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。
- 「ON」：表示窓の明るさが暗くなります。
- 「OFF」：通常状態。

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「DISPLAY」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定を選び、⊕を押す。
- 「ON」：常時、表示窓を点灯します。
- 「OFF」：本機を操作したときに、数秒間表示窓を点灯します。

ちょっと一言
- 「DISPLAY」を「OFF」に設定しているときに、本体表示ボタンを押すと、入力信号の種類を表示します（デジタル入力のみ）。

ご注意
- 「DISPLAY」が「OFF」に設定されていても、消音機能が有効になっているときやPROTECT状態のときは、表示窓は常時点灯します。

スリープタイマーを使う（SLEEP）

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。

1 アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

2 「SLEEP」を表示させ、⊕または→を押す。

3 設定時間を選び、⊕を押す。
ボタンを押すごとに、設定時間が切り換わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

ご注意
- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

次のページへつづく

オートスタンバイ機能（AUTO STBY）

本機に音声が入力されていない状態で、本機を操作しないまま一定時間（約30分）が経過すると、本機の電源が自動的に切れ、無駄な電力消費を抑えることができます。
お買い上げ時の設定は「ON」です。

1 **アンプメニュー画面で「SYSTEM」を表示させ、⊕または➔を押す。**

2 **「AUTO STBY」を表示させ、⊕または➔を押す。**

3 **設定を選び、⊕を押す。**

- 「ON」：オートスタンバイ機能を使用する。
- 「OFF」：オートスタンバイ機能を使用しない。

ご注意

- この機能によって本機の電源が切れた場合、次にご使用になるときに、テレビの電源オンに連動せずに、本機の電源がオンにならないことがあります。
- 本機の電源が切れる約2分前から、本機の表示窓に「AUTO STBY」が点滅します。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない

→ テレビのスピーカー設定を確認する。
本機の電源は、テレビのスピーカー設定に連動します。本機でテレビの音声を楽しむには、テレビのスピーカー設定を「アンプ（アンプできく）」などにする必要があります。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ 前回電源を切ったときに、テレビのスピーカーから音声が出ていた場合、テレビの電源を入れても本機の電源は入りません。

電源オフ連動機能が働かない

→ テレビの電源を切るとつないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる

→ HDMI機器制御機能をオン（入）に設定したときは、電源オフ連動機能が働き、テレビの電源を切ると、本機の電源が切れます。

本機の電源が勝手に切れてしまう

→ オートスタンバイ機能が働いています（62ページ）。

音声

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤーなど、本機につないでいる機器の音声設定を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理（44ページ）が働かないことがあります。本体表示ボタンを押すと、入力されている信号の種類が表示窓に表示されます。「2.0CH」や「1.0CH」と表示された場合は、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分は含まれておりません。
「5.1CH」などと表示された場合はサラウンド音声ですが、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。

本機からテレビの音声が出ない

→ テレビと本機をつないでいる光デジタル音声コード、またはアナログ音声コードの接続を確認する（27ページ）。

→ テレビの音声出力設定を確認する。

→ ARC対応のテレビをお使いの場合、HDMI機器制御機能およびARC設定をオン（入）にしてください。

本機とテレビの両方から音が出る

→ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選択した機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

次のページへつづく

テレビの音声が映像より遅れる

- 「A/V SYNC」がオン（入）に設定されていたら、「A/V SYNC」をオフ（切）に設定する。

音声の出力方法をテレビスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

- 音量制限機能が働いています。詳しくは「音量制限機能を使う」（49ページ）をご覧ください。

本機からつないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。
- 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。
- つないだ機器が正しく選択されているか確認する。
- つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。
- つないだ機器のHDMI設定を確認する。

一部のスピーカーから音が出ない

- スピーカー端子が奥までしっかり差し込まれているか確認する。
- 入力されている音声の種類や、本機のサウンドフィールドの設定（44ページ）によっては、センタースピーカーから音は出ません。

音が途切れたり、ノイズが出る

- 「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（66ページ）。

映像

テレビ画面に映像が出ない

- テレビと本機を正しくつないでいるか確認する。
- 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。
- テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。
- 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。
- つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する（27、29ページ）。

テレビ画面に3D映像が出ない

- テレビおよび映像機器の仕様によっては、3D表示できない場合があります。本機が対応する3D映像フォーマットをご確認ください（67ページ）。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

- HDMI機器制御機能がオフ（切）になっている。
- 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器をつないでいる場合は、アンプメニューの「PASS THRU」が「ON」に設定されているか確認する（51ページ）。

リモコンが機能しない

- 本機の🅁受光部に向けて操作する。
- リモコンと本機との間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

- HDMI接続を確認する（27ページ）。
- テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う（46ページ）。
- つないだ機器が“ブラビアリンク”に対応していることを確認する。

➔ つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

➔ HDMI接続を変更したときは、「"ブラビアリンク"を使う準備をする」（46ページ）の手順を再度行ってください。

➔ 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。

➔ 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、"ブラビアリンク"が影響して音声が出ないことがあります。その場合、"ブラビアリンク"（HDMI機器制御機能）をオフ（切）にする（47ページ）か、音声出力端子もテレビにつないでください。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

➔ 本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

これらの処置をしても正常に動作しないときは—リセット

本機側のボタンを下記の手順で操作します。

1 I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。

2 本機のINPUT SELECTOR、VOLUME −を押しながら、I/⏻（電源）ボタンを押す。
表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

次のページへつづく

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-CT350
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）*	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）*（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

* リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロント部：80 W + 80 W、4 Ω
センター部：80 W、4 Ω、5 kHz
サブウーファー部：80 W、4Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

入力端子
TV、SA-CD/CD　アナログ
TV、SAT/CATV　デジタル（光）
VIDEO　デジタル（同軸）

HDMI部

コネクター　HDMI®コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT/CATV：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
ビデオ入出力（3D）
BD、DVD、SAT/CATV：
1280 × 720p、59.94/60Hz
Frame packing
1920 × 1080i、59.94/60Hz
Frame packing
1920 × 1080i、59.94/60Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、59.94/60Hz
Side-by-Side (Half)
1280 × 720p、50Hz
Frame packing
1920 × 1080i、50Hz
Frame packing
1920 × 1080i、50Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、50Hz
Side-by-Side (Half)
1920 × 1080p、24Hz
Frame packing
オーディオ入力
BD、DVD、SAT/CATV：
リニアPCM (最大7.1ch)／Dolby Digital／DTS／AAC

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0 MHz（100 kHz間隔）
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75 Ω、不平衡型
中間周波数　10.7 MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602 kHz（9 kHz間隔）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450 kHz

スピーカー（SS-CT350）

フロントスピーカー部
形式　フルレンジスピーカーシステム
使用スピーカー
40 mm × 70 mmコーン型 × 2
定格インピーダンス
4 Ω
センタースピーカー部
使用スピーカー
40 mmコーン型 × 2
定格インピーダンス
4 Ω
最大外形寸法（約）
996 mm × 66 mm × 72 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　2.4 kg

サブウーファー（SA-WCT350）

形式　サブウーファーシステム
バスレフ型
使用スピーカー
130 mmコーン型
定格インピーダンス
4 Ω
最大外形寸法（約）
196 mm × 450 mm × 410 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　10.5 kg

WS-CT350EB

取り付け金具
最大外形寸法（約）
180 mm × 147 mm × 26 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　555 g

リアカバー A
最大外形寸法（約）
80 mm × 85 mm × 14 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　25 g

リアカバー B
最大外形寸法（約）
80 mm × 82 mm × 47 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　35 g

リアカバー C
最大外形寸法（約）
80 mm × 82 mm × 47 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　35 g

テレビカバー
最大外形寸法（約）
273 mm × 245 mm × 31 mm
（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　165 g

次のページへつづく

一般

電源　AC 100 V、50/60 Hz

消費電力　電気用品安全法による表示：
80 W
HDMI機器制御がオフ（切）のとき（スタンバイ状態のとき）：
0.3 W以下

電源出力（デジタルメディアポート）
DC OUT：5 V、700 mA

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco 省エネルギー

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートオフ機能。
- 待機時消費電力20%削減（2009年度当社従来モデル比）。

索引

ブラビアリンクガイドページ

ブラビアリンクの接続や対応機器などに関する情報は、下記ホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/bravialink/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ··········0120-333-020	フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 4 1 8 1 4 8 6 0 4 * (1)